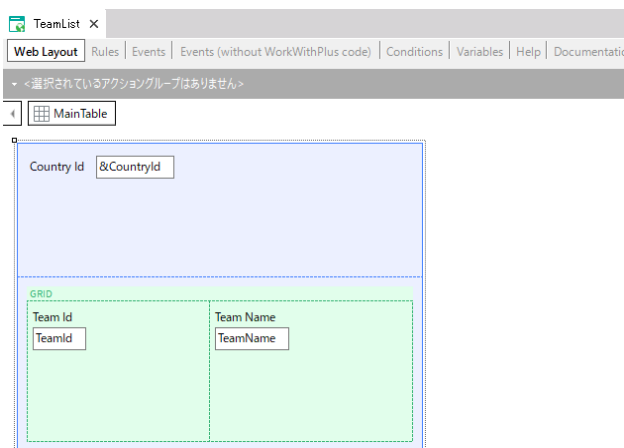


オブジェクトを元に戻す操作



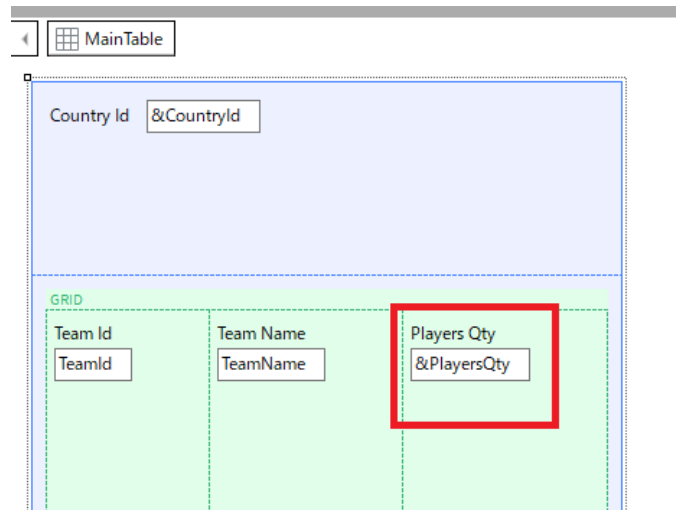
開発者がオブジェクトに変更や修正を加えた後、何らかの理由でそれらの変更を元に戻し、最後にサーバーに送信されたときの状態にオブジェクトを戻したいということがよくあります。

例: WorldCup KB には、国を選択してその国のチームのリストを表示できる TeamList Web パネルがあります。コミットはすでに行われているため、これがサーバー上で見つかったオブジェクトの現在の定義です。



しかし、その後、各チームの選手数などを確認するために、いくつかの変更が加えられることが決定されました。

グリッドに変数 `&PlayersQty` を追加し、対応する Load イベントをプログラミングします。



この変更の結果、[チーム開発] ウィンドウを開くと、TeamList Web パネルがコミットの対象となっていることを確認できます。.



しかし、何らかの理由で、開発者はすべての変更を取り消すことに決め、サーバー上で見つかった状態へローカルの状態を戻したいと考えています。このために、元に戻す操作を実行する必要があります。

このためには、「チーム開発」ウィンドウにて、コミット対象として表示されている任意のオブジェクトを右クリックし、「元に戻す」を実行します。

この操作により、ローカルで行われた変更を破棄し、対象オブジェクトを、開発者がコミット/更新操作を最後に実行した時点（サーバー上で見つかった最新の状態）に戻すことができます。

[コミット](#) | [更新](#) | [履歴](#) | [アクティビティ](#) | [バージョン](#) | [継続的インテグレーション](#)

コメント

このコミットに含まれている変更を表示...

最近の

保留中のコミット (1/1)

無視されたオブジェクト

<input checked="" type="checkbox"/>	名前	タイプ	デスクリプショ	変更日	モジュール	ローカルの状	最後の同期	ユーザ
<input checked="" type="checkbox"/>	TeamList	Web Panel	Team List	2022/09/21 17:27	Root Mod...	変更済み	2022/09/21 17:27	GXJP

開く(O) F12

履歴照会

差分を表示

履歴(H) Ctrl+Shift+H

参照(R) Ctrl+F12

削除 Delete

チェンジセットへ移動

チェンジセットから削除

'無視されたオブジェクト' に追加

更新

オブジェクトをエクスポート

元に戻す

サーバー上のオブジェクトと比較

その後、 **TeamList Web** パネルを開くと、サーバー上の最新状態（例：コミット操作が最後に実行されたとき）に戻ったことがわかります。

